

稲門英語会だより

第3号
平成6年
11月10日

早稲田の杜に500人

創立100周年 式典・祝賀会

大成功!

創立百周年を迎えた早稲田大学英語会は、平成六年五月二十八日、その記念事業のクライマックスともいえる記念式典と祝賀会を大学のキャンパス内で催した。

【記念植樹】

午後一時、記念式典に先立って、演劇博物館前におよそ百五十名のOBが集まり、石榑和夫氏（昭27）の司会、水榑荷官司の司式により植樹祭が厳かに執り行なわれた。植樹された木は春と秋の二回花を咲かせるヒガンザクラである。根元には記念碑として英文と日本語で書かれた金属プレートを埋め込んだ自然石が置かれ、記念樹の益々の成長と早稲田大学英語会と稲門英語会の発展を願う祝詞が奏上された。

この記念植樹に対しては大学当局より中瀬稲門英語会会長に感謝状が贈呈された。なお、演劇博物館を背景に撮影されたこのヒガンザクラの写真はテレホンカードにデザインされ、当日の出席者や大学の関係者に配布された。

【記念式典】

植樹祭に引き続き記念式典が安部球場跡に作られた総合学術センター内の国際会議場（井深ホール）で行なわれた。司会はこの式典のためにわざわざ京都から駆けつけた児玉士誠氏（昭

37）である。まず挨拶に立った大学英語会会長東後勝明氏（昭38）は、東京専門学校が明治十五年に作られた後僅か十年にして英語会が産声を上げた。



た意義、伊東先生を中心に百年史の編集が行なわれていること、小林秀之氏（昭30）を中心に四年をかけて記念事業の準備が行なわれたことなどを述べたあと、「この百年の歴史をただ喜んでいくわけにはいかない。次の百年には英語は『一つの外国語』から『一つの言葉』になる。英語を習うのではなく、英語を使って何をやるかが問題となる」と結んだ。

続いて現役の学生を代表し、幹事長の沢明宏君が「戦争中は英語を学ぶことができない時代であったが、戦後は英語がコミニケーションに欠かせない時代となった。いま私たちはさらに新しい時代に来ている。英語を上手に使えるだけでは十分ではなく、英語を使って人類のために役立つことが大切であり、来る二十一世紀に、世界に向けて開かれていく日本にする

ことが私たちの役目である」と力強く挨拶をした。すばらしい英語のスピーチであった。

来賓として最初に祝辞を述べた小山総長は早稲田大学百周年記念事業について触れた後、「英語会百年の

歴史のうち前半は戦争の連続であり、厳しい時代に英語会を支えて来た人に敬意と感謝を捧げる。また後半は平和な時代であるがますます英語が必要な時代である。これからの英語会の活躍を祈念する」と述べた。

次に司会者の英語の紹介で登場したモンデル駐日大使代理のアルマゾフ氏は、格調の高い日本語で挨拶を始め、場内の笑いと拍手を受けたあと大使の英文のメッセージを読み上げた。

最後の祝辞はワセダガーディアン稲門代表の神尾昭男氏である。神尾氏はガーディアンが英語会の有志によって作られたことを披露し、「これからポスターの時代を迎えるが、国際的な相互理解のために、英語会とガーディアンが手を携えて頑張っていこう」と述べ大きな拍手を浴び

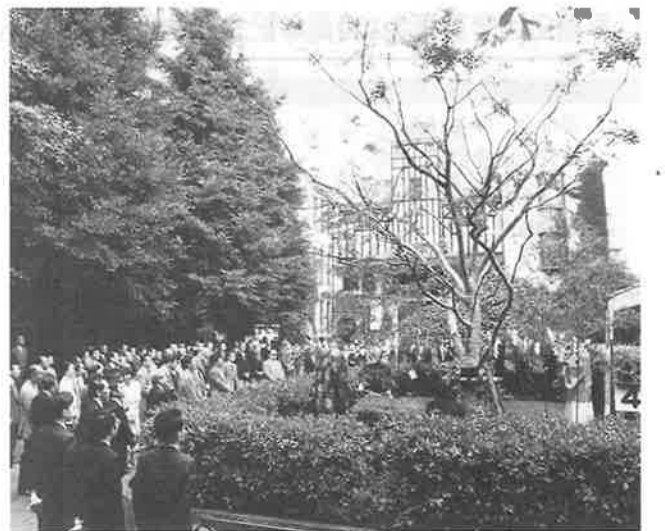
「ESGが百周年を迎えるという事は、この百年に世界で起こったことを振り返るよい機会である。この期間には、時には異なる信念や理想を持つ人々がぶつかりあうこともあった。また科学、医学、宇宙、通信などの進歩に関する情報交換の努力もなされて来た。しかしこの一世紀、科学の進歩とかかわりなく人間が常に持ち続けて来た望みがある。それは隣人と付き合い、夢や希望を共に持つことである。ワセダのESGはこの百年、単に英語力の向上だけでなく、世界の隣人との理解を深める努力をしてきた。そしてこのことは日本のために役立つ、国際交流に貢献して来た。これからもぜひその努力を続けてほしい」

英語会の祝典にあふざしく英語のスピーチが続く。この式典のために韓国からわざわざ来日された稲門会友の李慶現氏が続いて演壇に立った。李氏は英語会時代にはスピーチの名手として活躍され、その後韓国で文化情報大臣も経験された。現在は中央日報編集顧問をつとめておられ、昭和十七年卒業にあたる英語会OBとの交流が深い。氏は、学生時代下のカビくさい部屋で友達とよき時間を過ごしたと、野尻湖の合宿でブロークンながら夜を徹して英語で語りあったこと、部室のタイプライターで友達から借りた「チャタレー夫人の恋人」を日夜タイプしたと、パールハーバーの日の新聞の大見出しとワセダガーディアンが発行中止のちにジャーナリストになる動機となったことなどを述べた後、「来る

相互理解を一段と進めよう」としめくくった。

このあとの百年の間に英語会貢献をして下さった方々に表彰状と記念品が贈呈されたが、このうち西山和夫氏はハワイ大学教授で英語会の海外遠征のたびに親身になってお世話下さった方、小倉隆氏と橋本征夫氏は英語会会友であり、昭和四十年代に英語会を指導し四大学のコンテストで早稲田を優勝に導かれた。

このあとの百年の間に英語会貢献をして下さった方々に表彰状と記念品が贈呈されたが、このうち西山和夫氏はハワイ大学教授で英語会の海外遠征のたびに親身になってお世話下さった方、小倉隆氏と橋本征夫氏は英語会会友であり、昭和四十年代に英語会を指導し四大学のコンテストで早稲田を優勝に導かれた。



わりに伊東先生が挨拶にたち受賞に対するお礼を述べられた。

そのあと、松橋功氏の記念公演と早稲田大学グリークラブの記念演奏があり校歌を斉唱して、記念式典が無事終了した。

【記念祝賀会】

式典に引き続き、旧都電車庫脇のテニスコート跡に建設されたリーガロイヤルホテル早稲田に於いて記念祝賀会が開催された。司会は河村亮氏（平2）。伊東先生の百年の歴史を踏まえた挨拶の後、青木先輩の発声で乾杯が行なわれ、和気あいあいの内に進行した。久しぶりの年度を越えた交流に、アトラクションのすばらしい歌声もかき消される程であり、思い思いに十分に旧交を暖めた。祝賀会は都の西北の大合唱の後、志賀隆幹事長（昭37）の挨拶で無事終了し、参加者はそれぞれ予定してあった二次会の会場へと向かった。

早稲田大学英語会創立百周年記念式典





（昭24卒）の鋳入



記念樹下にはメモリアルプレートが光る



演劇博物館前で記念植樹



厳かに式典

記念行事推進のリーダー小林秀之氏（昭30卒）
いつになく神冥



植樹祭進行役の
石博和夫氏（昭27卒）



松橋功氏（昭31卒）のユーモアを
交えた記念講演



大学英语会幹事長澤明宏君の挨拶



早稲田大学英语会 創立百周年記念式典会場

平成六年五月二十八日

式典を待つ早稲田大学国際会議場



式典を前に最後の点検



井深記念ホールに集う会員諸氏

早稲田大学英语会100周年記念事業収支中間報告

収入の部

寄付金（94.6.10迄）	10,667,105円
祝賀会会費収入（※）	3,630,000
記念式典招待者お祝金（※）	120,000
預金利息（94.6.7迄）	397,579
雑収入（打合せ会残金）	20,000
合計	14,834,684円

支出の部

記念式典関係費（※）	4,056,451円
祝賀会関係費（※）	3,122,922
会員名簿発行費（平成3年12月版）	1,034,057
世話人会会合負担額	221,826
募金関係費用／送金手数料	215,826
記念誌取材経費	20,429
合計	8,671,511円

差引残高6,163,173円（94年6月13日現在）

（※）の内訳は別紙

以上

世話役会発足まで

小林秀之

卒業後十年までの年次の世話役人選には苦勞しました。大半の人が海外や地方の第一線で活躍しているからです。

創立百周年の時期が到来することを稲門英語会で具体的に意識し始めたのは昭和六十二年でした。翌年の総会で昭和二十二年卒業の富田廣さんが会長に就任し、大学英语会の方でも伊東教授に代わり東後教授が会長に就任するという重要な人事が内定してしま

た。ところが不幸にも富田さんが病を得て不帰の客となり、続いて二十六年卒の奥野新幹事長が就任まもなく急逝するという不測の事態に見舞われて作業は中断してしまいました。この間の空白で幹事の改選をする時間的余裕がないことから別途九十周年記念事業世話役会を組織することになりました。

当時、会員への連絡手段は文書送付に限られていました。まず名簿自体が十分整備されていないという状態にありましたので、どうしても実働可能な世話役組織が必要と考えたからです。

世話役としては首都圏に在住し、世話役業務に時間を割くことができそうな人物であり、同時に同年代の会員消息に通じていることが条件になるので、まず伊東教授のご指導で最初の人選を為し、世話役会を開き、そこで趣旨を説明した上で正式な世話役を再度人選するという二度の手続きをとることになりました。初会合が東京駅構内の精養軒で開かれたのが平成二年九月十七日でした。

その時の議論がきっかけとなって後に会則の改訂と執行部の大幅な若返りが実現した記念すべき会合でした。皆が次の百年に向けた英語会の新たな息吹を感じた大きな瞬間であったように思います。計画は途中で九十周年ではなく百周年記念という形に変更され事業内容もそれにふさわしく大型で華麗なものとなりましたが世話役達は着実に裏方の作業を分担して祝賀会を成功に導く大きな役割を果たしました。五年間にわたる彼らの献身的な努力に経緯を表したいと思



「都の西北」に高らかに響く

前英語会会長伊東克己氏(昭23卒) 100年の歴史について語る



稲門会



早稲田大学英語会創立百周年記念祝賀会

式典・祝賀会の成功を感謝する稲門英語会幹事長志賀隆氏(昭37卒)



式典受付開始!



会場を盛り上げる細川さんのJAZZ VOCAL

華やかに祝賀会



祝賀会司会の河村亮氏(平3卒)



英語会出身のシャンソン歌手村美恵さん



当日最長老の杉本正根氏(大15卒)に気配りをみせる大学英語会会長東後勝明氏(昭38卒)



早稲田大学英語会100周年を伝える新聞各紙

記念植樹祭

月日：平成6年5月28日出
時間：午後1時～1時30分
場所：早稲田大学演劇博物館前

記念式典

時間：午後2時～3時30分
場所：早稲田大学国際会議場(総合学術情報センター内)

第1部

司会 児玉士誠

挨拶

早稲田大学英語会 会長 東後勝明
早稲田大学英語会 幹事長 澤明宏

祝辞

早稲田大学 総長 小山宙丸様
東京アメリカンセンター館長 アレキサンダー・アルマゾフ様
(駐日米国大使 ウォルター・モンデル閣下のメッセージ代読)
稲門英語会 会友 李揆現様
慶応義塾大学英語会OB代表 田端利夫様
ザ・ワセダ・ガーデン稲門会代表 神尾昭男様

感謝状および記念品贈呈

挨拶 早稲田英語会 前会長 伊東克己様

第2部

記念講演

JTB 代表取締役社長 松橋功様
(株)日本交通公社
演題 「その先の日本へ」
演奏 早稲田大学 グリークラブ
挨拶 稲門英語会 会長 中瀬正一
校歌斉唱

記念祝賀会

時間：午後4時～6時
場所：リーガロイヤルホテル早稲田(ロイヤルホール)

プログラム

司会 河村亮
挨拶 早稲田大学英語会 前会長 伊東克己
稲門英語会 元副会長 藤原研三
乾杯 稲門英語会 元副会長 青木昇
一歌謡一
アトラクション <ジャズ>
ボーカル 細川綾子
ピアノ 小林洋
一歌謡一
アトラクション <シャンソン>
シャンソン 杉村美恵
ピアノ 和田典久
チェロ 吉川よしびろ

挨拶 稲門英語会 幹事長 志賀隆
校歌斉唱

感謝状贈呈者

伊東克己様 The Asahi Evening News 殿
西山和夫様 The Mainichi Daily News 殿
The Daily Yomiuri 殿
青木昇様 The Japan Times 殿
藤原研三様 ㈱研究社 殿
池上泰様 ㈱小松屋 殿
佐久間央様 ㈱野田屋 殿
中瀬洋一様 ㈱富川旅館 殿
小倉隆様
橋本征夫様



式典司
児玉士

市任幹事会のご報告

会員の相互交流を目ざして

体制が発足して初めての常任幹事会が、9月13日青山「うすけぼ」で開かれました。皆の熱意を反映してか、多数の常任幹事が出席しました。次の5つの事が決定しました。

■名簿の充実
右記の方針決定を受け、各期の皆さんに積極的に活動していただくこと。以下の3つを先行して行います。

■稲門英語会全体の忘年会を開催します。
時間 12月5日(月) 6:30PM
場所 リーガロイヤルホテル 早稲田

■女性会員の運営参加
運営がややもすると男性会員の偏重しているのを改め、女性会員の運営参加を求めたい。

■稲門英語会の事業を円滑に行なっていくために、それぞれについて常任幹事の人たちに責任を分担して頂くことになりました。当面は左記の方針で決めましたが、随時多くの人たちに参加頂きます。

ください。尚経費節約のため切手は御自身でお貼りください。

■朝食会を企画します。
6回程度、仕事が始まる前の時間(8:00AM)を活用して、会員をゲストスピーカーにある一定のテーマについて、会食をしながら学習、懇談をしようというものです。丸の内近辺のホテルを予定しています。

別途会費が必要となりますが、別紙アンケート(葉書)にお答えください。各期の常任幹事または左記にお願いします。

尚以上の企画運営についてのご意見、お問合せは各期の常任幹事または左記にお願いします。

副幹事長 大渡 肇 (S38)
0334011445
萩原 亜海 (S39)
0488642652
尚、早稲田大学英語会100周年記念事業及び記念式典、祝賀会の会計を別掲のごとくご報告いたします。

稲門英語会会報
稲門英語会会報
川岸 高真 (S35)
小原 雄介 (S39)
名簿管理
川岸 高真 (S35)
忘年会・朝食会
萩原 亜海 (S39)
ゴルフコンペ
菅野 博文 (S37)

ホスト百年祭の課題

大学英語会会長 東後 勝明

百周年の大祝賀の催しが終り、あつという間に五ヶ月が過ぎました。大学内では噂が噂を呼び「ESSってすごいな」とか「ESSっていくつもあると思っ

ていたがこれがやはり、一番の老舗か」とか言われている様です。私も学内では鼻高々といったところで、プロ野球の落合効果ならぬ、ESSの百年祭効果は絶大なものがありました。

ある時、ESSの学生から電話がかかり、「先生、今の学生会館はなくなるぞ

うですが、そうなるのと一体部室はどうなるのですか。」と問い詰められ私も一瞬、受話器を持った手が硬直したものでした。

確かに新奥島体制の新キャンパス整備構想の中に、第一、第二学生会館をとりこわし、新学生会館を建設し、その中にすべてのクラブ活動を入れる、恒久的な形の部室は設置せず、予約制で流動的に必要な時に各サークルが施設を共同使用するというものである。

この話を聞かされたら、我々も百年祭の余韻に酔っているわけにはいかない。十一月四日に新総長奥島体制が発足する。はたしてこの構想が押し進められるのか。はやくも活動家学生たちは、反旗をひるがえし、



「常任幹事会のご報告」でも触れましたが、会の運営は皆様が納入して下さる会費によりまかなわれております。今年度会費をまだ納入されていない方は、同封の用紙をご利用の上お振り込み下さるようお願い致します。大学英語会も財政は豊かではなく、ドラマの練習場の確保も十分でない状態です。また稲門会自体の事業を行なうためにも、資金は必要です。ご協力をお願いします。

全面撤廃を求めて、声高に運動を展開しはじめています。この百年祭の催しでそんなことになるとESSは、「OB会が黙っていないぞ!」と少々ごみを効かせたことは事実である。しかし、このOB会に本当にた自力があるのかなと思わざるを得ない側面もないとは言えない。この百年祭一時的な打ち上げ花火であっただけかどうか、関係諸氏はじっくりと見守っている。その意味でESSの真価はむしろこの百年祭の後に問われていると言ってもいいのではないだろうか。どうやらこの百年祭は一つの物事の流れの終末をはずきりと浮き彫りにしたと同時に、新たな時代のはじまりを明示したように思えてならない。次の百年祭に向けての第一歩が踏み出され、その門出は極めて困難なものである。新たな時代の要請が大学理念の再生か。はた又、新体制の独断と偏見は、お礼申し上げます。

見か、いずれは大いに議論のあるところではあるが、少なくとも一つはつきりしていることは、大学の教学と学生の自主的サークル活動とはつきり分離しようという考え方である。その為に新しい建物のなかに研究室、教室と部室を共存させないという強い意志がどこからともなく働いている事実である。それに対応するためには、サークル活動の成果と大学の知的財産としてしっかりと位置付け、OB、現役が一体となってそれを守り抜く姿勢が必要ではないだろうか。

新しい幹事会では、そうした現状を踏まえ、次々と新機軸を打ち出していけることと思う。大学ESSに対し、一層のご支持ご支援を切にお願いし、ホスト百年祭が実り多いことを切望する次第である。最後に重ねて百年祭記念行事に対し皆様の暖かいご支援、ご援助いただきましたことに、お礼申し上げます。

会費納入のお願い

お願い

忘年会に参加しよう

参加しよう

顧問	青木 昇 (S05)	藤原 研三 (S06)	池上 泰 (S10)
会長	久間 央 (S16)	中瀬 洋一 (S18)	伊藤 克己 (S23)
副会長	永原久太郎 (S27)	東後 勝明 (S38)	
幹事	中瀬 正一 (S24)	松木 政司 (S25)	鳩沢 重夫 (S26)
副幹事	豊田 誠 (S21)	松橋 功 (S31)	川岸 高真 (S35)
監事	石樽 和夫 (S27)	萩原 亜海 (S39)	
会計幹事	志賀 隆 (S37)	大野 功 (S34)	
年度幹事	大渡 肇 (S38)	平松 政雄 (S53)	
(・は常任幹事)	岡田 俊雄 (S46)		
昭和27	・佐々木 猛子	梅 大 入	力 二 郎
28	・小野 崎 秀	大 大 入	隆 徹
29	・塩 崎 林 秀	大 大 入	節 昌
30	・小 早 川 保	大 大 入	節 昌
31	・早 川 保 尚	大 大 入	節 昌
32	・神 高 秋 義	大 大 入	節 昌
33	・高 土 肥 井 浩	大 大 入	節 昌
34	・土 桜 井 浩	大 大 入	節 昌
35	・桜 福 田 浩	大 大 入	節 昌
36	・福 清 水 邦	大 大 入	節 昌
37	・清 水 部 雄	大 大 入	節 昌
38	・阿 小 原 正	大 大 入	節 昌
39	・小 佐 藤 内	大 大 入	節 昌
40	・佐 藤 内 越	大 大 入	節 昌
41	・山 村 大 加	大 大 入	節 昌
42	・村 大 加 弘	大 大 入	節 昌
43	・大 柴 原 孝	大 大 入	節 昌
44	・大 岡 田 俊	大 大 入	節 昌
45	・柴 岡 田 俊	大 大 入	節 昌
46	・岡 鏡 光 伸	大 大 入	節 昌
47	・鏡 松 谷 原 山	大 大 入	節 昌
48	・熊 木 杉 福	大 大 入	節 昌
49	・木 杉 福 平	大 大 入	節 昌
50	・杉 福 平 布	大 大 入	節 昌
51	・福 平 布 鈴	大 大 入	節 昌
52	・平 布 鈴 野	大 大 入	節 昌
53	・布 鈴 野 嶋	大 大 入	節 昌
54	・鈴 野 嶋 沢	大 大 入	節 昌
55	・野 嶋 沢 小	大 大 入	節 昌
56	・嶋 沢 小 加	大 大 入	節 昌
57	・沢 小 加 堀	大 大 入	節 昌
58	・小 加 堀 清	大 大 入	節 昌
59	・加 堀 清 古	大 大 入	節 昌
60	・堀 清 古 平	大 大 入	節 昌
61	・清 古 平 久	大 大 入	節 昌
62	・古 平 久 尾	大 大 入	節 昌
63	・平 久 尾 上	大 大 入	節 昌
平成元	・久 尾 上 藤	大 大 入	節 昌
2	・尾 上 藤 遠	大 大 入	節 昌
3	・上 藤 遠 志	大 大 入	節 昌
4	・藤 遠 志 高	大 大 入	節 昌
5	・遠 志 高 志	大 大 入	節 昌

アンケートのお願い
この返信はがきは、近い将来開催予定の朝食会とゴルフコンペの案内郵送希望の調査を兼ねています。忘年会の出欠とあわせて希望をお聞かせください。